

旭市立古城小学校 家庭学習の手引き

小学校の学習は、将来社会人として自立するための基礎となるものです。特に、「読む」「書く」「計算」は、欠かすことのできない「生きるための力」です。
学校では、「個に応じた指導」や「分かる授業」そして補習指導等を通して基礎的・基本的事項の定着を図るために努力していますが、家庭と協力することによりさらに、その定着が何倍にも高められます。つまり、家庭学習の習慣化が子どもの「生きる力」を高めるのです。
この手引きをよく目にする場所に貼っておき、家庭学習の習慣化を高めましょう。

1. 家庭での学習を習慣化しよう

(1) 学習時間のめやす

低学年 20分
中学年 40分
高学年 60分

(2) 学力アップは規則正しい生活から

- 早寝・早起き・朝ご飯
- テレビは1日の時間を決めてみましょう。(ゲームも時間を決めて)
- 自分で時間割や学習用具をそろえる

(3) 学習の3つのポイント

- テレビを見ながらしない。
- よい姿勢です。
- 机の上をきれいにしておく。

2. 家庭学習の参考例

- (1) 毎日続けるもの
(日記・漢字・計算・音読・ドリル)
- (2) 学校の宿題や予習
- (3) 自由学習(好きな学習、伸ばしたい学習読書など)
- (4) 翌日の学習の準備も家庭学習の一部
- (5) タブレット
・ジャストスマイルドリル
・調べ学習やレポート作成
- (6) その他(特別にしなくてはいけない学習)

3. 家庭学習ができる環境づくり

- (1) 保護者が見守ってあげる。
- (2) 学習中は子どもの隣に座ったり、一緒に考えて話し合ったりする。
- (3) 家族や地域の人を巻き込んで子育てをする。

4. 各学年で身に付けたい力

習慣づけの1年生

- ①ひらがな、カタカナが読め書ける。
- ②助詞(て、に、を、は)を適切に使って文章が書ける。
- ③長音・促音・拗音を正しく書くことができる。
- ④たし算・ひき算ができる。
- ⑤80字の担当漢字のすべてが読め、8割の漢字が書ける。
- ⑥鉛筆を正しく持って字が書ける。

楽しく覚える2年生

- ①160字の担当漢字の全てが読め、8割の漢字が書ける。
- ②順序よくお話をすることができる。
- ③九九がすらすら言える。
- ④位をそろえて筆算ができる。
- ⑤決められた長さの直線を正しく引ける。
- ⑥時計が読める。

分岐点の3年生

- ①200字の担当漢字の全てが読め、8割の漢字が書ける。
- ②短い詩が暗唱できる。
- ③簡単な言葉を辞書で引ける。
- ④主語と述語の意味が分かる。
- ⑤わり算ができる。
- ⑥はかりを使って重さが読める。

「9歳の壁」を乗り越える4年生

- ①202字の担当漢字のすべてが読め、8割の漢字が書ける。
- ②ローマ字を適切に読み書きできる。
- ③文と文のつながりを考えながら、指示語や接続語を使う。
- ④国語辞典・漢和辞典を正しく使える。
- ⑤わり算の筆算ができる。
- ⑥倍を使った文章題が正しく解ける。
- ⑦コンパスを使って簡単な図がかける。
- ⑧地図を使って見知らぬ場所や地名が調べられる。

いろいろな個性が際立つ5年生

- ①193字の担当漢字のすべてが読め、8割の漢字が読める。
- ②今までに習った漢字を使った熟語の8割が書ける。
- ③小数のかけ算やわり算ができる。
- ④分母が同じ分数のたし算・ひき算ができる。
- ⑤割合・百分率を使った問題が解ける。
- ⑥47都道府県の位置がわかり、正しく書ける。
- ⑦日本の産業について、資料集を使って調べることができる。
- ⑧リコーダーで習った曲を演奏できる。
- ⑨自分の体力にあった運動をして体を鍛えることができる。

中学校生活に希望がもてる6年生

- ①小学校で習得すべき漢字のすべてが読め、8割の漢字が書ける。(6年生は191字)
- ②小学校で習う漢字を使った熟語の8割を正しく書ける。
- ③歴史に残る古文のいくつかにふれ、暗唱できる。
- ④分数のたし算・ひき算・かけ算・わり算ができる。
- ⑤歴史上の事件や人物についてだいたい説明できる。
- ⑥重要な年号を10程度言える。
- ⑦世界の主な国々の位置を正しく示せる。
- ⑧理科の実験器具の正しい使い方を知っている。
- ⑨パソコンでローマ字入力ができる。

学力向上は、家庭学習の習慣化から